

令和 4 年 6 月 28 日現在

機関番号：23903

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K02515

研究課題名(和文) 韓国における幼児教育・保育の現状と発展方向に関する調査研究

研究課題名(英文) a study on trends and issues of early childhood education in korea

研究代表者

丹羽 孝 (Niwa, Takashi)

名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・名誉教授

研究者番号：10113325

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：韓国国家水準幼児教育課程の改訂研究を行った。韓国では2019年7月に、国家水準幼児教育課程(ヌリ課程)の全面改訂があり改訂過程の研究、改訂案の詳細な分析、日本保育学会HPに訳文掲載した。2019年5月には日本保育学会第72回大会でヌリ課程改訂を主題に、白千姫所長を招聘し、大きな成果を得た(『保育学研究』57-3)。丹羽は韓国の育児政策研究所「The 4th KICCE East Asia Policy Semminer」(2019.8)、9月には韓国教員大学校で日韓幼児教育研究交流の歩みを講演した。改訂ヌリ課程に関わって韓国政府が公刊した「ヌリ課程関連文書(3冊)を翻訳・研究した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義の一つは、折しも韓国の国家水準幼児教育課程の改訂の時期であって、改訂課程、改訂内容及び遊びを通じての学びという韓国幼児教育の新しいパラダイムの内容について、詳細に研究できた点にある。二つには新しく韓国政府によって公刊された国家水準教育課程にする解説資料を入手し、詳細を知ることができた。社会的意義としては丹羽による二つの機関(育児政策研究所、韓国教員大学校)での招待講演による学术交流と、本研究グループによる韓国幼児教育学会の研究発表が、最優秀賞受賞したことは大きな社会的意義があったと考えられる。

研究成果の概要(英文)：We examined a new curriculum(revised nuriu curriculum)in korea in this study. First,we conducted detailed analysis new curriculum.Secondry,we tranlate the new curriculum, and published it to the HP(Japan Society Research Early Childhood Care and Education).Third,we planned and performed International symposium(theme;content and processes of the revised NURI curriculum) at the 72ed research congress of Japan society Reseach Early Childhood Care and Education(ref; Research on Early Childhood Care and Education in Japan;Vol157-3).

In 2019.8,NIWA gave a lecture on kicce(korea Institute of Child Care and Education :The 4th KICCE East Asia policy seminar-trends and issues of early childhood curriculum in Korea and Japan).In 2019.10,NIWA gave a invite talk at Korea National University of Education(tehme;comparative researchi histry of Early Childhood Education and Care of Korea-Japan). Lastly,we have translated research documments(3books),concern with play and learning in NURI curriculum.

研究分野：韓国幼児教育

キーワード：国家水準幼児教育課程 ヌリ課程 標準保育課程 幼児中心教育課程 遊び中心幼児教育課程 教師の自主性の尊重 第三者評価政策の導入 地方自治体支援の強化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

(1)本研究の学術的背景 ここ10年間にわたる世界の幼児教育研究の発展過程とその成果については、例えば OMEP の世界大会が扱ってきた研究主題を見ることによって、その世界的動向を知ることができる。OMEP は2001年に“Starting Strong”を発行し、世界の幼児教育の発展方向と課題として子どもたちの最善の利益を実現するための適切で、質の高い保育・幼児教育の具体化を可能とする条件の研究、及び質の高い保育とは何かを追求する研究の活性化を提案した。その過程で当然ながら幼稚園と保育施設の制度のあり方(一元化)問題や、ESD を基盤とした生涯学習体系の出発点としての幼児教育の重要性についても、問題提起した。

(2)韓国の状況 韓国ではこうした OMEP の活動に積極的に参加しながら、独自に幼児教育・保育の質の向上について、国家次元で積極的に取り組んできている。例えば“ A Study for Validation of an Assessment Scale for Early Childhood Programs ” ; Rehee Un Hai, Ki - Sook Lee ; 『幼児教育研究』No.15, 1995 はその一例である。そして現在では全幼稚園とオリニジップを対象とした第三者評価政策を実現し(2017~)、なお一層保育の質の向上を目指して努力をしている過程にある。

(3)より課程の改訂問題 折しも本研究の開始時期は、韓国における幼稚園と保育施設に適用されている国家水準教育課程(より課程)の改訂期に当たっていた。そこで私達はこれを好機と捉え、改訂の背景、改訂過程の内容と特徴、改訂された新しいより課程の特徴と発展課題について日本での最新の研究となるべく構想し、取り組んだ。

## 2. 研究の目的

(1)基本的研究目的 現代の韓国幼児教育研究を行うに際して注目すべき研究課題の一つは、「幼保一元化」制度をどうするかという問題である。韓国の幼児教育界は2000年頃まではアメリカ型制度を基本モデルとして採用してきた。しかしそれ以降、世界の幼児教育先進国の改革動向に強い関心を示すようになりスエーデンにおける幼保一元化政策、ニュージーランドをモデルとした第三者評価政策の導入等が行われた。本研究はこうした韓国における幼児教育政策の基本的な基盤を考慮しつつ、より課程導入以降の韓国の幼児教育界の現況と発展課題についての具体的な調査研究を行うことを研究目的としていた。

(2)改訂より課程に関する調査研究 2013年に登場したより課程は、6年を経過した2019年7月に全面改定されることになっていた。本研究はこの好機を活用して、より課程はなぜ改訂されるのかという改訂背景及び改訂課題、どのような過程を経て改訂されるのかの過程分析、及び改訂より課程の内容と特徴を明らかにすることである。

(3)幼稚園教師及び保育教師養成教育課程に関する日韓比較研究 より課程の改訂に伴って、それがどのようなシステムによって現場の幼稚園教師や保育教師に伝達され、受容されるのかという関心を持った。そしてそれと併せて、私達は共に保育者養成校の教員であるという立場から、保育者養成教育課程ではどのように新課程の内容が教育されるのかについても大きな関心を持った。そこで、本研究では幼稚園教員養成教育課程についての日韓比較研究も行うこととした。併せて、韓国では初めてとなる保育者養成課程改革(認定制から課程制への改革)の主体である韓国保育振興院の協力を得て、その内容と改訂方向を明らかにした。

(4)韓国幼児教育関連基礎資料の翻訳と共有 私達は本研究を遂行する過程で韓国幼児教育学会(鄭美羅会長)、教育部幼児教育政策課、國務總理傘下育児政策研究所(白千姫所長)、同韓国保育振興院(柳熙貞所長)等の協力を得て、多くの韓国語基本文献を入手した。そして私達は今後の日本における韓国幼児教育研究の発展に資するよう、そのうちのいくつかを訳出し、研究会資料として活用できるようにした。一例としては『2019改訂より課程』の告示文の日本語訳を、日本保育学会HPに掲載したことがあげられる。

## 3. 研究の方法

(1)本研究で採用した研究方法の第一は、韓国政府(教育部、保健福祉部)が刊行している政府関連資料の活用である。第二は、育児政策研究所及び保育振興院という幼児教育・保育政策に関するシンクタンクである二つの研究機関が公開している研究資料の活用である。第三は、韓国幼児教育学会が公開している『幼児教育研究』(学会機関誌)、年2回開催されている定期学術大会研究資料の活用である。

(2)以上に加えて本研究では改訂より課程の地方水準での受容の実際に関する現場訪問調査(幼稚園、オリニジップ等)、地方水準での研究者訪問、地方行政当局訪問調査による調査研究によって獲得する資料の積極的活用を予定していた。

## 4. 研究成果

(1)国際シンポジウムの企画と開催

本研究グループは丹羽が日本保育学会国際交流委員会委員であることを積極的に活用して、2018年6月の国際交流委員会に2019年度日本保育学会で開催する国際シンポジウムの主題と

して、韓国の改訂より課程を主題として構想することを提案し、了解された。この了解を出発点として丹羽は第 19 回国際シンポジウムの内容を構想し、招待講演者として今回のより課程の改訂に際して、政府のシンクタンクとして主導的な役割を果たしてきた育児政策研究所の白仙姫所長を候補者とし、ソウルで直接依頼し了解を得た。以下、簡単にこの国際シンポジウムの計画を示せば、次の如くである。

主題「国の教育課程の改訂は、保育実践の場に何をもちたすか？ - より課程改訂の内容・過程と特徴から考える」

基調講演者 白仙姫 (Sun - Hee Baek) 国務総理傘下育児政策研究所長

指定討論者 清水洋子 (九州産業大学) 「韓国における標準保育課程と保育実践に学ぶ新しい保育の方向」

砂上史子 (千葉大学) 「国の教育課程は、保育実践の場に何をもちたすか？ - 韓国より課程の改訂内容・過程と構造から考える」

司会 丹羽孝 (国際交流委員会)、小川清美 (大会実行委員会・OMEF 日本委員会)

日時 2019 . 5 . 4 大妻女子大学 A-150 講義室 13:00 ~ 16:00

参加者 約 200 名

この国際シンポジウムの詳細はのちに「保育学研究」第 57 巻第 3 号 (執筆 丹羽) に、掲載された。

(2) 丹羽による日韓幼児教育研究交流 上記国際シンポジウムの開催準備のために、基調講演者である白仙姫育児政策研究所長に何度か面会し、講演依頼をする過程で育児政策研究所に於いて改訂より課程試案の開発研究に携わった研究委員の先生方と意見交換する機会を得た。それに加えて 8 月の訪問時、改訂より課程の主要特徴について中心的な研究をされたキムウンヨン研究委員が「改訂より課程の理解」と題して、特別レクチャーをしてくださった。また、折角の機会だからと育児政策研究所及び韓国幼児教育学会の配慮による共催で、“The 4th KICCE East Asia Policy Seminar-Trends and Issues of Early Childhood Curriculum in Korea and Japan”を開催し、丹羽にも特別講演の機会が与えられた。主要内容は以下の如くである。

主題発表 1. 「日本の国家水準幼児教育課程の構造とその特徴」丹羽孝 (名古屋市立大学)

主題発表 2. 「2019 改訂より課程の理解」キムウンヨン博士 (育児政策研究所)

討論 1. イジョンウク徳成女子大学校教授

2. イワンジョンインファ大学校教授

(3) 外国学者招聘学術行事 (韓国教員大学校) での招待講演 2019 年 12 月 1 日、韓国教員大学校幼児教育研究センター (キムギョンチョル教授・所長) の主催による、外国学者招聘特別学術行事の講師として招かれ、「日本の幼児教育への招待」と題して、記念講演を行った。参加者は韓国教員大学校幼児教育科の先生方、学生と院生約 200 名だった。講演内容は 日本の幼児教育・保育制度の概要 (日韓比較の視点から)、日本における韓国幼児教育研究の内容とその特徴、丹羽による科研費支援の韓国幼児教育研究概要、日本保育学会水準での日韓学術交流の歩み、日本幼児教育史学会における林再沢講演、まとめ-「はなさき山」にみる保育の心だった。

(4) 研究論文による成果発表 本研究で得られた研究成果は基本的には大学の紀要論文による発表及び日本保育学会における学会報告の形で行った。その内容は別紙研究成果一覧に示しているが、ここでは紀要論文等に限って示すこととする。

新井美保子、丹羽孝、矢藤誠慈郎、渡辺眞依子、韓在熙、永井靖人「韓国の幼児教育発展基本計画に関する研究」、『愛知教育大学教職キャリアセンター紀要第 4 号』、2019.3、pp25 ~ 32

新井美保子、丹羽孝、柳熙貞、渡辺眞依子、韓在熙、矢藤誠慈郎、永井靖人「韓国の保育者養成制度・政策研究」、『愛知教育大学教職キャリアセンター紀要第 5 号』、2020.3、pp25 ~ 32。注記：柳熙貞先生は国務総理傘下韓国保育振興院の所長で、韓国における保育者養成教育課程開発の責任者である。それ故に共同執筆を依頼した。

新井美保子、丹羽孝、矢藤誠慈郎、韓在熙「遊び中心幼児教育課程に関する日韓比較研究」、『愛知教育大学教職キャリアセンター紀要第 6 号』、2021 . 3 , pp9 ~ 18

新井美保子、丹羽孝、矢藤誠慈郎、韓在熙「韓国の第 4 次オリニジップ標準保育課程の研究」、『愛知教育大学教職キャリアセンター紀要 第 7 号』、2022 . 3 , pp73 ~ 80

(5) 韓国幼児教育学会国際学術大会における最優秀賞の受賞 2019 年 9 月 28 日、韓国城南市の嘉泉大学校で開催された第 10 回 韓国幼児教育学会国際学術大会に於いて、私達は共同研究の成果の一部を、日韓幼児教育研究交流に資することを願って、発表した。発表者は新井美保子、矢藤誠慈郎、丹羽孝、韓在熙、渡辺眞依子他、発表主題は「 / 」だった。そしてこの研究発表は、大会発表の最優秀賞を受賞した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 新井美保子、丹羽孝、矢藤誠慈郎、韓在熙、	4. 巻 第6号
2. 論文標題 遊び中心幼児教育課程に関する日韓比較研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛知教育大学教職キャリアセンター-紀要	6. 最初と最後の頁 9-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 韓在熙	4. 巻 第69号
2. 論文標題 プロジェクトアプローチにおける幼児教育の原理及び方法に関する考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 四天王寺大学紀要	6. 最初と最後の頁 389 - 399
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 韓在熙、三井真紀、石井章仁、林悠子、松山有美	4. 巻 第50号
2. 論文標題 多文化保育研究におけるアプローチの課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 九州ルーテル学院大学Visio	6. 最初と最後の頁 55-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢藤誠慈郎	4. 巻 第7号
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症に係る教職課程運営への文部科学省の対応	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 和洋女子大学教職支援センター年報	6. 最初と最後の頁 5-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田真弓、清水陽子、丹羽孝	4. 巻 第59号
2. 論文標題 2019年改訂ヌリ課程改訂案比較研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 名古屋短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 19-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新井美保子、丹羽孝、柳熙貞、渡邊真依子、韓在熙、矢藤誠慈郎、永井靖人	4. 巻 第5号
2. 論文標題 韓国の保育者養成制度・政策研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知教育大学キャリアセンター紀要	6. 最初と最後の頁 25、3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 渡邊真依子	4. 巻 12
2. 論文標題 ドイツヘッセン州における幼小連携・接続の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生涯発達研究	6. 最初と最後の頁 97、03
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新井美保子、杉江栄子、古橋さつき他3名	4. 巻 20
2. 論文標題 幼稚園・保育所等にOEK琉保護者への情報発信方法の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知教育大学幼児教育研究	6. 最初と最後の頁 37,44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新井美保子、太田美鈴	4. 巻 69
2. 論文標題 市町村における新任保育者研修の現状と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告	6. 最初と最後の頁 25,32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 韓在熙	4. 巻 8
2. 論文標題 大学における多文化体験学習実践に関する考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 四天王寺大学教育研究実践論文集	6. 最初と最後の頁 15,26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹羽孝・韓在熙	4. 巻 1
2. 論文標題 日本幼児教育への招待：日本の幼児教育・保育及び日韓研究交流の動向	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教員大学校外国学者招聘記念論文集	6. 最初と最後の頁 3-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 新井美保子・丹羽孝・矢藤誠慈郎・渡邊真依子・韓在熙・永井靖人	4. 巻 第4号
2. 論文標題 韓国の「幼児教育発展基本計画」に関する研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知教育大学キャリアセンター紀要	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 新井美保子・丹羽孝・矢藤誠慈郎・韓在熙	4. 巻 第7号
2. 論文標題 韓国の第4次オリニジップ標準保育課程の研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知教育大学教職キャリアセンター紀要	6. 最初と最後の頁 pp73 - 80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 韓在熙、丹羽孝、新井美保子、矢藤誠慈郎、渡邊真依子
2. 発表標題 保育者養成教育課程に関する日韓比較研究
3. 学会等名 日本保育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清水陽子、丹羽孝、吉田真弓、古野愛子
2. 発表標題 改定ヌリ課程とその特徴
3. 学会等名 日本保育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 韓在熙、丹羽孝、新井美保子、矢藤誠慈郎、渡邊真依子
2. 発表標題 韓国国家水準幼児教育課程の研究
3. 学会等名 日本保育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 韓在熙、林悠子
2. 発表標題 日本の保育における国家責任の現況と責任
3. 学会等名 韓国嬰幼兒保育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新井美保子、丹羽孝、韓在熙、渡邊真依子、矢藤誠慈郎、永井靖人
2. 発表標題 日本の幼稚園教諭、保育士養成教育課程の研究
3. 学会等名 韓国幼兒教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丹羽孝
2. 発表標題 日本の国家水準幼兒教育課程の構造と特徴
3. 学会等名 第4次 KICCE East AsiaPolicy Seminar (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 韓在熙、山本元子
2. 発表標題 韓国テグ市英語教員支援計画に関する一考察
3. 学会等名 日本教育学会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 韓在熙
2. 発表標題 近代日本の幼児教育思想に関する一考察
3. 学会等名 東アジア古代学会第72回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丹羽孝
2. 発表標題 日本幼児教育への招待
3. 学会等名 2018階国学者招請学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 丹羽孝、渡邊真依子、加藤初代
2. 発表標題 尾張旭市保育所保育課程の研究
3. 学会等名 日本保育学会第71回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水洋子・丹羽孝・吉田真弓・大久保淳子
2. 発表標題 2019改訂ヌリ課程実行過程に関する支援資料分析
3. 学会等名 日本保育学会第74回大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	韓 在熙 (Han Jaehee)  (50619400)	四天王寺大学短期大学部・その他部局等・准教授  (44422)	
研究分担者	新井 美保子 (Arai Mihoko)  (60189975)	愛知教育大学・教育学部・教授  (13902)	
研究分担者	大村 眞依子(渡邊眞依子) (Oomura Maiko)  (60535285)	愛知県立大学・教育福祉学部・准教授  (23901)	
研究分担者	矢藤 誠慈郎 (Yato Seijiro)  (70259571)	和洋女子大学・人文学部・教授  (32507)	
研究分担者	永井 靖人 (Nagai Yasuhito)  (80551556)	愛知みずほ短期大学・その他部局等・准教授(移行)  (43925)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------